



園だより

第2号
平成31年4月25日
駿河台大学第一幼稚園
園長 田所 恒子

新生活をつくる

風薫るすがすがしい季節となりました。園歌にも歌われているイチヨウの若葉が日に日に色濃くなり薫風に揺れる様は、入園・進級という環境の変化を乗り越え、新生活を楽しむ子どもたちの姿と重なります。

入園当初、プレ保育の経験から「どうして毎日幼稚園に行くの？」と不思議がる新入園児もいたと聞きます。幼稚園という初めての集団生活への不安や戸惑いが「壁」として、少なからずあったことでしょう。でも、日を重ねるにつれ、自分の学級や幼稚園生活の流れ、先生と過ごす幼稚園の楽しさが分かってきたようです。毎朝、「大丈夫。(門から保育室まで)一人で行かれるから」と宣言するかのように言い登園する子どももいます。「お母さんに会いたい」と涙が出てしまう姿も減ってきました。子どもなりに頑張り、環境の変化という「壁」を自分の力で乗り越え、大きく成長する姿に胸が打たれます。気に入った遊具を使ったり、側にいる友達と触れ合ったり、先生と一緒に遊んだり……と、幼稚園生活を安定して楽しむ姿が増えてきてとても嬉しく思います。

クラス替えにより友達関係も変わり、担任も保育室も替わった年中・年長児にとっても、進級という環境の変化はとても大きな「壁」です。特に3クラスが2クラスとなる年中児は1クラスの園児数も増え、戸惑うことも多かったようです。今年度初めて取り入れた「多摩川住宅の公園」への園外保育は、年中・年長組がそれぞれの新たな学級をつくっていくためにとっても意義のある活動となりました。年長児は、初めて往路を30分ほど歩きました。みんなで頑張っただけのこの経験は、最高学年のクラスになったという自覚につながりました。特に築山では、最初は恐そうにしていた子どもも、友達の様子を見たり、声を掛けられたりしながら登り始めました。一度滑り降りると自信が付き、ズボンがすり切れるのも気がつかないほど夢中になって遊んでいました。「ちょっと怖い」遊びを通して、友達とのつながりが強くなり、また、自信が付き、意欲的に取り組む姿へとつながりました。年中児にもこの築山は大人気でした。担任と一緒に登ったり、滑り降りたりする中で、新しい担任との距離感も縮まったようです。昼食時の表情がぐっと変わっていました。

さらに、これまで年長児は、鯉のぼりを2クラスで1尾作っていました。しかし今年度は、自分たちのクラスの鯉のぼりという意識をもち、クラスの友達とのつながりやクラスのまとまりを高めていきたいとクラス毎に作ることにしました。そのため個人の持ち帰り用の鯉のぼりは製作しません。ご理解のほどよろしくお願ひいたします。5月は、天候も良く心地よい季節です。年少組はいよいよ2時までの平常保育となります。各クラス共に、戸外で体をいっぱい動かしながら、担任との信頼関係をさらに深め、先生や友達と一緒に新しい学級での生活をつくって行きます。

また、17日には親子遠足があります。子どもたちの新しいクラスでの生活がより充実するためには、保護者と担任の関係が密になることがとても重要です。さらに、保護者の方同士の関係も密であることが、子どもの健やかな育ちにとっても重要です。是非ご参加いただき、担任と、そして学級の保護者の方や子どもたちと交流を図り、親しくなっていく機会となればと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。



先生とお相撲。友達とカー杯ぶつかってもビクともしない先生。こんな遊びは、先生のことが大好きになります。



年長児の園外保育。友達と一緒に登った築山はとても高く、「こんなに高いところに登れた」「滑り降りることができた」という経験は大きな自信となります。



年中児の園外保育。先生と遊ぶ楽しさは格別です。



青空の下、歴代の年長児が作った鯉のぼりが気持ちよさそうに泳いでいます。園庭で遊ぶ子どもたちの安全を配慮し今年度は飾る数を減らしました。間もなく今年の年長児の鯉のぼりも加わります。